

「史記」燕召公世家によると、周の成王の時、召公が国を治め、巡行した時、棠樹の下で獄政を決裁したが失職する者がなかつた。召公が亡くなつた時、民はその政を思い棠樹を懷い、歌詠して甘棠の詩を作つたといふ。

去りて
益ます
詠ぜらる。

さ
ます
えい



支